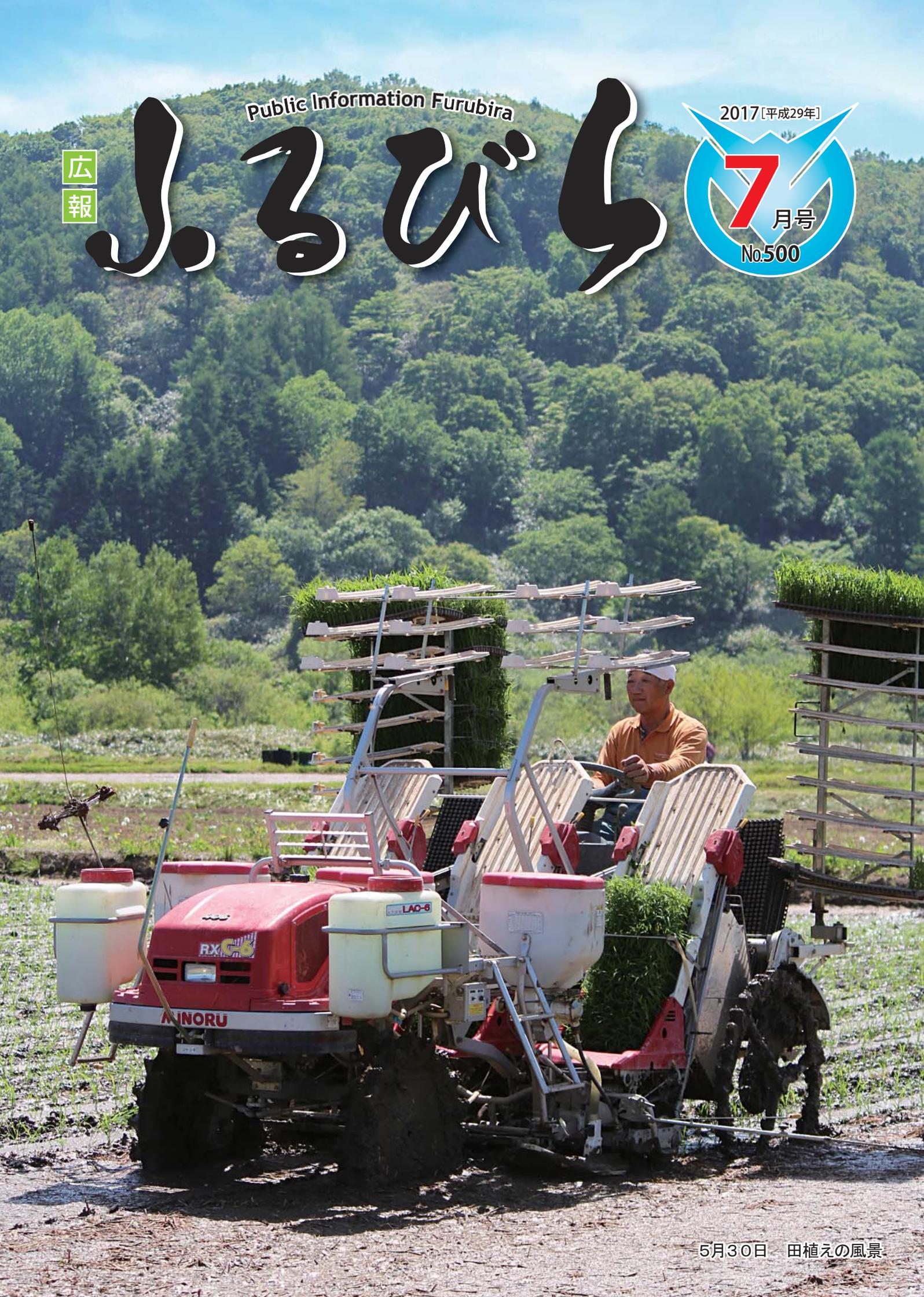


Public Information Furubira

広  
報

# ふるびら

2017 [平成29年]



5月30日 田植えの風景

さだむら ひでゆき  
**貞村 英之**  
**新町長 インタビュー**

**未来へ向けて一歩ずつ**

**町長としての決意に至るまで**

質問 どういった想いで町長へなったのですか？

町長 これまで北海道の職員として働いており、小樽市の副市長は勤めましたが、自分が古平町の町長になるとは全く想像もしていませんでした。そのような中、町長へのお話をいただき、自分に務まるのかと大変悩みましたが、周りからの強い推薦や応援もあり「古平のために何かを成し遂げたい」と思い決意しました。

**基幹産業の安定化や人材育成**

質問 町長としてまず何に取り組もうと考えていますか？

町長 基本的には、本間前町長の政策を引き継いでいこうと考えております。私の政策としては、町の基幹産業である漁業・水産加工業の安定化について取り組むとともに、地域や役場のリーダー的存在をつくる人材の育成から始めることを考えています。

**雇用創出の具体化**

質問 まちづくりに関してどのように考えていますか？

町長 行政というものは、すぐに実を結ぶものは少なく、多くのことは継続的に取り組むことによつて達成できると考えています。人口減少問題もその一つですが、雇用創出を具体化し、転出者数の増加に歯止めをかけていきます。また、景観に関して、海岸の風景は大変きれいですが、街並みが少し残念な気がします。観光客を誘致するためにもこの点に取り組んでいければと思います。

**簡素で勝手のよい新庁舎**

質問 防災対策はどのように考えていますか？

町長 防災対策については、万全の備えをしたからこれでいいということではなく、昨年であれば観測史上初の1週間に3回も北海道に台風が上陸するなど、想定をはるかに上回ることも近年多々みられます。そのため、防災用品の備蓄

や災害に直面した際の態勢強化を計画的かつ継続的に行っていくとともに、公助だけでなく町全体に自助や共助の考えも浸透させ、防災対策としての太い柱としていこうと考えています。新庁舎建設は防災基盤整備の一環でもあり、シンプルで使い勝手のよい施設を目指したいと考えています。

**誰もが生き生き暮らせる町**

質問 福祉施策はどのように考えていますか？

町長 子どもから高齢者までが生き生きと暮らせる福祉のまちづくりを目指します。そのためには、生活基盤を整えることにより、古平にいつまでも暮らしたいと思えるまちとしたいです。また、今のような人口減少社会で税収も少なくなる中、1つの町で行政サービスを充足させるのは大変難しいです。これからの行政の在り方として、北後志地域やより広い地域でサービスを維持していく。そのために、市町村の垣根を越えたネットワークの強化が必要です。医療に関しては、現在の小樽市までの二次医療圏に加



え、小樽・余市間の高速道路も来年度開通予定のため、三次医療圏として札幌市との連携も今後必要が生じると考えています。

## 身の丈にあった行財政運営

**質問** 平成29年度の歳入・歳出予算は過去最大の42億9000円を計上しています。今後の行財政はどのように考えていますか？

**町長** 今年度以降の予定として、ハード事業と呼ばれる、建物を建てたり、道路を整備したりする事業を多く予定しています。しかし庁舎建替という大型事業が控えているため、優先順位を定め、計画的に行うことで、身の丈にあった健全な行財政の運営を行います。

## 多々あった失敗体験

**質問** 北海道職員や小樽市副市長時代の失敗談はありますか？

**町長** 組織というのは1人で物事を行うということとはなく全体で決定していきます。そのため、大きな失敗というのはありません。手違いや勘違いなどのちよつとしたミスでしたら、しよつちゆうありました。どのようにフォローしていくかが大切だと思っています。

## 「よそもの」に対する不安

**質問** 個人的な悩みごとはありますか？

**町長** 本間前町長は古平町出身で、半世紀に亘り町に貢献してきた方です。しかし私は町のみならずから見れば、言わば「よそもの」ですので、町のみなさんに受け入れていただけると不安です。しかし一生懸命勉強し、古平町のために何かを成し遂げたいと考えています。

## 町民のみなさんへ

**質問** 最後に町のみなさんへ向けて一言お願いします。

**町長** 本間前町長のようなきめ細やかな行政運営と比べると至らない面はあるかと思いますが、多少であればご容赦いただくとともに、わからない面は教えていただきたくと考えています。町民のみなさんの意見を聞きながら、これまでの良いところは守っていきますし、変えていくべきところは変えていく考えですので、住みやすく暮らしやすいまちづくりを進めるために、ご協力をお願いいたします。

## 貞村英之 プロフィール

- 昭和33年3月20日生まれ（59歳）
- 出身地 小樽市
- 小樽商科大学短期大学部卒業
- 北海道職員や小樽市副市長を経験
- 血液型 A型
- 趣味 これから釣りに挑戦したい
- よく使ってきた言葉

どんな立派なアイデアでも賞味期限がある（いいアイデアでもそれだけに捉われず、時代に合わせて発想を変えていくことが必要）

# 特集 ふるびらの歴史と共に66年 「広報ふるびら」が500号を迎えました！

1

昭和26年6月、古平町広報の創刊号が発行されました。当時の広報は「弘報」の字が使用されており、これは町の情報を発信する一方的な意味がありました。後に、戦後のGHQによる「行政の民主化」の考え方が導入され、町民からの情報提供の意味も含まれた「広報」へと変わっていきまし。古平町では昭和32年12月発行の第64号から変わりました。



昭和30年12月発行第49号 町民1万人突破!!



昭和39年11月、古平町の広報は発行第100号を迎えました。表紙には、古平小学校の新築に合わせ学校給食が始まった記事が掲載されていました。給食のメニューはパンと牛乳とおかずの三本立てで子ども達の嬉しそうなお顔を印象的です。当時の児童は全小学校合わせて約2100人もいたそうです。

昭和33年11月発行第70号 積丹国道古平、余市間ついに完成 眠れる宝庫の扉開く (当時10年の歳月、9億2000万円の総工費、75万人にのぼる人員を費やし念願の国道が開通しました。)

100

昭和54年4月 発行第163号 古平高校新校舎完成

昭和60年1月 発行第191号 豊浜トンネル完成写真と旅行村完成間近

200

昭和62年6月、古平町の広報は発行第200号を迎えました。第100号からは年1度や2か月に1度の発行などがあり23年が経過しました。表紙には、交通安全街頭啓発の様子が掲載されており、その車はまだ「札」ナンバーで映っています。昭和63年から「札幌」ナンバーへと変更されました。



昭和39年6月発行第99号 11月から上水道給水開始

昭和42年12月発行第110号 みなと保育所開設



平成21年3月号で古平町の広報は400号を迎えました。表紙は新春書初め大会の様子です。表紙が初めてフルカラーになったのは平成22年3月発行の第215号からで平成19年4月発行の第378号から白黒になり、平成29年1月発行の第494号から再びフルカラーになりました。



平成12年10月号で古平町の広報は300号を迎えました。表紙にはロードレース大会の写真が載っており、当時は約500人が参加したようです。平成28年度の参加者は約1200人だったので、規模の拡大がうかがえます。

300

400

昭和63年4月発行第204号 古平トンネルの拡幅工事完成

平成6年1月発行第238号 北後志消防組合古平支署庁舎及びコミュニティ消防センター完成

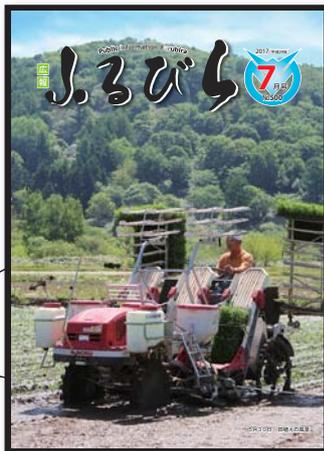
平成8年2月発行第251号 国道229号線豊浜トンネル崩落

平成9年6月発行第260号 あいらんど広場パークゴルフ場オープン

平成18年11月発行第373号 行財政構造改革プランの概要固まる（当時、財政運営で苦しんでいた古平町は数多くの対策を行いました。その中には、スキー場の運営休止や町職員の給料の削減、議員定数を14名から10名へ変更などが含まれていました。）

平成24年3月発行第436号の後に、初の号外が発行され、古平高等学校の閉校と再活用についての内容が掲載されました。

平成29年7月号で広報は記念すべき第500号を迎えました。今回の記事作成にあたり、創刊号から広報を振り返ってみて、多くの方が携わって発行してきたことを実感するとともに、改めて町の歴史について知る貴重な時間となりました。また後世にまで広報が残ることを考えると、その責任の重さを痛感し、より良い広報を作成するために精進したいと思います。これからも「広報ふるびら」をよろしくお願いいたします。



平成16年1月発行第339号 沖歌トンネル供用開始

平成17年10月発行第360号 古平町立みなと保育園（現在の幼児センター）完成

平成20年11月発行第397号 丸山トンネル完成

平成22年9月号 豪雨による古平川氾濫の被害状況報告

平成23年4月発行第425号 本海ふるる温泉「しおかぜ」完成

平成26年4月発行第461号 ほぼえみくらす完成

500

# 備えあれば憂いなし！ これがあれば安心!? 防災グッズ



広報ふるびら4月号で行った「街のこえ」のアンケート結果をお知らせします。ご回答いただいた町民のみなさん、ありがとうございます。

■回答者数 18名  
 ■結果詳細  
 ○年齢 30代 1名、40代 1名、50代 5名、60代 11名、70代以上 8名

○性別 男性 11名、女性 8名  
 ○居住地域 浜町方面 15名、西部方面 3名

■質問結果  
 問1 あなたは自分の避難場所を知っていますか？  
 ① はい18名 ② いいえ0名

問2 あなたは災害が起きた時どうするか、家族と話し合ったことがありますか？  
 ① ある15名 ② ない3名

問3 あなたは避難グッズ(緊急時にすぐ持ち出せるもの)を用意していますか？  
 ① はい10名 ② いいえ8名

アンケートの結果、いずれの問いに対しても①の前向きな回答をした方が過半数を超えており、防災への意識が高いことがわかりました。しかし、具体的な行動である家族間での話し合いや避難グッズの用意など行っていない方もいました。水害、火災、地震などの災害は当然ですが、いつ私たちを襲ってくるかわかりません。もちろん起こらな

いに越したことはありませんが、新聞やテレビなどの報道をみるたびに、避難グッズの必要性を感じる方もいらっしゃるのではないのでしょうか？  
 そもそも避難グッズはなぜ必要なのでしょう。実は、避難するまでの間に何かが必要ということはほとんどありません。その多くは自宅に帰れず、避難所で長期間生活することになった時に、私たちの健康、安全、精神面を支えてくれる助けとするものです。  
 今回、避難グッズリストを左側に載せておきます。ぜひ参考にしてみてください。

ろえるだけ良いという「量」の問題ではなく、避難所での生活を想定し、どういった場面でどういうものが必要となるのかを考える「想像力」が大事だということ。また、年齢や身体状況によっても必要なものが異なってくる点も気をつけてください。  
 いつどこで起こるか分からない災害。その時あなたのそばに誰かがいるとは限りません。まずは自分の身は自分で守る「自助」が何よりも大切です。町では今後、避難グッズ購入の斡旋もする予定です。今この時から、あなたなりの防災対策を始めませんか？

## 避難グッズリスト

<b>貴重品</b>		
災害時でもつながりやすい公衆電話を利用するために小銭があると良いです。	財布	<input type="checkbox"/>
	通帳	<input type="checkbox"/>
	印鑑	<input type="checkbox"/>
	保険証	<input type="checkbox"/>
	免許証	<input type="checkbox"/>
<b>非常食</b>		
3日分は用意しましょう。そのまま食べられるものを揃えると良いです。水は1人1日2リットルが目安です。	飲料水	<input type="checkbox"/>
	乾パン	<input type="checkbox"/>
	缶詰	<input type="checkbox"/>
	レトルト食品	<input type="checkbox"/>
	アメ・チョコレート	<input type="checkbox"/>
<b>避難用具</b>		
懐中電灯は両手をあけることができるヘッドライトがおすすめ。ずきんはタオルでも代用できます。	懐中電灯	<input type="checkbox"/>
	ラジオ	<input type="checkbox"/>
	予備の電池	<input type="checkbox"/>
	ヘルメット・ずきん	<input type="checkbox"/>
<b>救急セット</b>		
持病がある方は専用薬を入れておきましょう。	ばんそうこう・消毒液	<input type="checkbox"/>
	薬	<input type="checkbox"/>
	ガーゼ・包帯	<input type="checkbox"/>
<b>生活用品</b>		
手袋は軍手でいいのですが、ガラスの破片などが散乱していることもありますので、革製のほうが重宝します。新聞紙は、体を温めたり、応急手当、食器などにも代用できる多用途のアイテムです。	厚手の手袋	<input type="checkbox"/>
	毛布・タオル	<input type="checkbox"/>
	缶切り	<input type="checkbox"/>
	ライター・マッチ	<input type="checkbox"/>
	ナイフ	<input type="checkbox"/>
	携帯用トイレ	<input type="checkbox"/>
	カイロ	<input type="checkbox"/>
	新聞紙	<input type="checkbox"/>
ビニール袋	<input type="checkbox"/>	
<b>衣類</b>		
全ての季節、特に冬の寒さに備えられるようにしましょう。	下着・靴下	<input type="checkbox"/>
	長袖・長ズボン	<input type="checkbox"/>
	防寒具・雨具	<input type="checkbox"/>
<b>女性・子ども・高齢者はこちらがあると便利</b>		
ウェットティッシュは使う方が多く、あると便利です。マスクはすっぴん隠しにも○。お菓子はのどが渴きづらいものを選びましょう。	ウェットティッシュ	<input type="checkbox"/>
	生理用品	<input type="checkbox"/>
	マスク	<input type="checkbox"/>
	お菓子	<input type="checkbox"/>
	粉ミルク・哺乳瓶	<input type="checkbox"/>
	オムツ	<input type="checkbox"/>
	お薬手帳	<input type="checkbox"/>



昨年度の住民集会の様子

また、この運動に対する理解を深めてもらうため、次代を担う小・中学校の子どもたちにも犯罪や非行、その立ち直りに関する作文と標語の募集も行います。優秀作品については古平町住民集会で発表、表彰を行います。

法務省が進める「社会を明るくする運動」は今年で67回目です。犯罪や非行のない地域社会を築き、立ち直りに努力する人を支えることを目標にしています。

この運動を広く町民の皆さんに知ってもらうため、北後志の5町村で毎年、推進委員会を設置し活動しています。

今年は7月10日に車両パレードで、各町村を訪問し、それに併せて町長へ内閣総理大臣と北海道知事からのメッセージを伝達します。

古平町住民集会は、7月21日に文化会館で、北後志住民集会は、7月28日に赤井川村生活改善センターで開催されます。

**毎年7月は  
「社会を明るくする運動」  
強調月間です！**

ふるびらスポーツクラブ体験会

**小 さな頃からスポーツに親しんで**

5月20日、古平町B&G海洋センターでふるびらスポーツクラブ体験会が開催され、町内から約30名の子どもたちが参加しました。

このスポーツクラブは子どもたちの運動を習慣化し、様々なスポーツに親しむ機会を提供するために今年度から始まりました。対象者は3年生以下の小学生と幼児とに分かれており、町が委託したインストラクターが指導を行います。活動は6月から3月までの間、水曜日と金曜日毎週2回行われます。

体験会では、指導するインストラクターが「話している人の方を向いて、元気よく返事をしましょう」と子どもたちに呼びかけました。

実際に運動が始まると、4つのチームに分かれ、さまざまな走り方でスタートと三角コーンの往復競争や大玉転がし、ボール送り、フラフープくぐりなどを行い、笑顔で汗を流していました。

参加した茂木悠真くんは「走るのがとっても楽しかった。また参加したいです。」と話してくれました。



第1回漁協祭開催

**新 鮮な海の幸に多くの人が集まる**

6月11日、東しゃこたん漁協主催の今年度第1回目の漁協祭が、古平漁港内の漁協直売所前で開かれ、町内外からの約3000人が前浜産の新鮮な魚介類を味わいました。

漁協祭は地元の魚介類をPRする目的で実施しており、今年で8年目の開催です。時折小雨の降る中でしたが、とれたてのボタンエビやホッケ、今月解禁になったウニなどの鮮魚販売では朝から行列ができました。予想を上回る客足に、時間前に売り切れるブースが続出しました。

また、買った海産物をその場で焼いて食べられるコーナーやウニ丼やエビラーメン、あわびカレーなどが味わえるコンテナ食堂も多くの人で賑わっていました。





## 古平小学校 大運動会



古平小学校大運動会が5月28日、多目的運動広場（小学校前グラウンド）で行われ、全校児童約1000人は「全力で心を一つに、これまでの自分を超えよう」というスローガンのもと、元気いっぱいグラウンドを駆け回りました。

開会式で赤・白組代表の6年生熊木鷲くんと本間洸佑くんが「全力で行い、最高の運動会にするよう努力します」と力強く選手宣誓をした後、競技が始まりました。

児童らは紅組と白組に分かれ迫力のある応援合戦の後、「徒競走」や「綱引き」、「玉入れ」など昔ながらの定番の競技から、昨年流行した「恋ダンス」や「PPAP」などの時代を反映した競技まで全20種目を行いました。

長い棒を2人でコーンを周り、次のペアに運ぶ「うずまきリレー」では勢いがつきすぎて、コーンから大きく外れてしまうこともありました。借り物競争とパン食い競争を合わせたような「どきどき大逆転」では、イケメンの人を探している児童に、先生が名乗りをあげ、会場の笑いを誘っていました。

今年の運動会は雨がぱらつく中、紅組350点、白組310点で紅組の勝利で幕を閉じました。



# 古平中学校 体育大会



第70回 古平中学校体育大会 新記録

種目	学年	氏名	記録	これまでの記録
女子 ハンドボール 投げ	1年	上野杏奈 野村咲月	20m 20m	17m87cm
男子 ハンドボール 投げ	3年	田口滯	32m	31m65cm

※今年度よりメートル未満の距離は計測していません。

閉会式で宮本校長は「一生懸命楽しそうに競技に取り組んでいて、素晴らしい体育大会になった。ここで得たチームワークをこれからの学校生活でも生かしてほしい」と述べ、大会を閉じました。

古平中学校体育大会が6月6日、中学校グラウンドで行われ、全校生徒約40人は体育大会のテーマである「開花」のもと、力の限りそれぞれの競技に取り組みました。

開会式で生徒会長の3年生中村水音さんが「それぞれの種目で最大限練習の成果を発揮できるよう頑張ろう」と生徒に呼びかけました。大会には学年ごとに目標を掲げたクラス旗を作成して臨み、生徒が大会の進行や競技の実況中継を行うなど、生徒自らが大会を運営していました。

午前の部で行ったハンドボール投では、男女ともに、新記録が生まれました。

午後の部では団体競技5種目が行われ、長縄跳びは3年生がチームワークを発揮し、1位になりました。

幼児センター春の遠足

お弁当を食べている様子

## 間 近な消防車に大興奮

5月17日、幼児センター春の遠足が行われ、4歳と5歳の園児が参加し、道端の桜やたんぽぽなどの自然にふれあいながら、屋外の活動を楽しみました。

遠足のコースは文化会館から中央集会所を通り中島公園に向かうもので、古平消防署では普段はあまり見る機会のない消防車を間近で見ることができ、園児たちはとても喜んでいました。約1時間かけて公園に着くと園児たちは疲れも見せず、すべり台やブランコで遊びました。

その後、古平町B&G海洋センターのアリーナで、出発の時から楽しみにしていたお弁当をおいしそうに食べていました。

つき組の本間愛那ちゃんは「すべり台で滑るのが楽しかったし、お弁当がとってもおいしい」と笑顔で話してくれました。



消防車を見学する園児



明和地区健康相談・転倒予防教室

## 身 近なもので簡単な運動を

5月19日に明和地区の健康相談・転倒予防運動教室が開催され、住民ら4人が参加しました。

参加者は町保健師による血圧測定や健康相談を受け、古平福祉社会辻田作業療法士の指導のもと1時間ほど体の動きを良くする体操を行いました。

運動はサララップの芯を手にとって空中に放り投げキャッチしたり、スポンジでできたボールを使い両足で挟んだり、手と手の間に挟んだりするものです。これにより転倒しそうになった際にとっさに手が出たり、握力が向上しピンの蓋が開けやすくなるなど、日常生活の心配事が少なくなります。

参加者の佐藤愛子さんは「ひざが悪いのですが、無理なく運動でき体がぼかぼか温かくなりました」と話してくれました。



運動を行う住民たち



子育て支援センター親子料理教室

## 小 さな頃から料理に親しんで

5月23日、親子料理教室が子育て支援センターで行われ、8組の親子が参加しました。

この教室は、子育て支援センターに登録している幼児とその親を対象に、自分で料理を作ることによって、食への大切さを理解してもらう食育の一環として行われています。

今回はサラダ巻き、押し寿司、とろとろキャベツのスープの3品を作りました。初めに栄養士が「危ないと思いためらうかもしれませんが、1度は子どもに包丁を触らせてあげてください」と親子に呼びかけました。

子どもたちは、お母さんと一緒に野菜を食べやすい大きさに切ったり、ハムをかわいなお花の形にくり抜いたりしながら料理を楽しんでいました。

参加した田口明日美さんは「小さな子どもでも簡単にできる内容で、親子で楽しく参加できました」と話してくれました。



真剣に料理する親子



楽しそうに料理する親子たち



沢江町内会活動

## おいしいカレーや綺麗な歩道

5月25日、沢江町内会の活動として第1回お食事会がふれあいセンターさわえで行われ、地域住民ら約20名に「Fu~(ふう)さんカレー」が振舞われました。

食事会の開催は今回が初めてで、メニューは古平産のホッケフライと瀧野農園でとれたゆで卵がのっている特製カレーです。BGMには昔の沖揚げ音頭が流され、住民らは懐かしんでいました。

また5月28日には、住民ら28名により沢江町の道路の歩道にマリーゴールド250本が植えられました。

これらの活動は会員同士の親睦を目的として行われ、今後も健康教室やもちつきなどのイベントを計画しています。



Fu~さんカレー



花壇に花植えをする住民



小学校交通安全教室

## 交通事故に遭わないために

正しい交通ルールを学び交通事故を防ぐことを目的に、6月5日古平小学校の体育館で交通安全教室が開かれました。

始めに、児童を代表して6年生の日野瑠華さんが「安全に登校できるよう、いろいろ教えてください。よろしくお願いします」と挨拶を行い、学校の先生から基本的な交通ルールを学びました。

その後、学校の外に出て、低学年は徒歩で、高学年は自転車に乗って交通ルールを学びながら町内を一周しました。セイコーマートや役場前の交差点などでは古平駐在所の警察官や交通安全指導員などが道路の横断方法などの指導を行いました。

最後に古平駐在所長が「歩く人を優先すること、横断歩道は自転車を押すことなど、今日学んだことを大人になっても忘れないでください。」と呼びかけていました。



手を挙げて横断歩道を渡る児童たち



フィービラの森草刈ツアー

## 年々成長する森に驚く参加者

6月11日、札幌市の生活クラブ生活協同組合が町内のフィービラの森で、草刈りツアーを実施しました。

同組合は、町内の牧草地跡を購入し、この土地を古平の人と共に育てたいという思いから、フィービラの森と名付けました。森はこれまで牛乳パックの売却金を活用し、ミズナラやトドマツなどが植樹され、大切に育てられてきました。参加者は、以前は遠くからでも見えていた桜の木が、見えなくなるほどの森の成長に驚いていました。

今年の草刈りツアーには同組合の組合員やふるびらの自然を守る会の会員ら約60名が参加し、草刈りの他、森の散策やバーベキューなどを行い交流を深めています。



草刈りをする参加者たち



# 後期高齢者医療制度のお知らせ

## ～ 保険証（被保険者証）の一斉更新について ～

### ■ 保険証（被保険者証）が新しくなります

現在ご使用の保険証の有効期限が平成29年7月31日をもって満了となるため、8月以降は使用できなくなります。  
7月中に新しい保険証を交付しますので、お手元に届きましたら、黄色の保険証をご使用ください。

- 新しい保険証の有効期限は、平成30年7月31日までです。
- 紛失したときや、汚れたときは再交付しますので、役場民生課健康保険係までお申し出ください。

新しい保険証は黄色です



### ■ 減額認定証（限度額適用・標準負担額減額認定証）も新しくなります

現在ご使用の減額認定証の有効期限が平成29年7月31日をもって満了となるため、8月以降は使用できなくなります。有効期間は保険証と同じく1年間です。  
引き続き交付対象に該当する方は7月中に減額認定証を交付しますので、8月1日からはオレンジ色の減額認定証をご使用ください。  
新たに必要となる方は、下記の交付要件に該当することをご確認の上、古平町民生課健康保険係へ申請してください。

減額認定証の交付対象…次の区分Ⅰまたは区分Ⅱに該当する方

区分Ⅱ	○ 世帯全員が住民税非課税である方
区分Ⅰ	世帯全員が住民税非課税である方のうち、次のいずれかに該当する方
	○ 世帯全員の所得が0円の方 (公的年金収入のみの場合、その受給額が80万円以下の方)
	○ 老齢福祉年金を受給されている方

新しい減額認定証はオレンジ色です



### ■ 医療費通知を全受診者へ送付します

広域連合では被保険者の皆様の医療費総額などについてお知らせする「医療費通知」を、対象期間に医療機関等を受診した全ての被保険者の皆様へ送付します。  
発送月は、9月と3月の年2回です。  
【イメージ図】

受診年月	診療を受けた医療機関等	診療区分	日数	医療費総額	自己負担額
H29年1月	〇〇病院	医科外来	1	18,000	1,800
H29年2月	××薬局	調剤	1	10,000	1,000
合計				28,000	2,800

※ この通知は皆様の受診状況についてお知らせするもので、請求書ではありません。

### ◆ 医療費通知の活用について

- 医療費の推移が一目でわかるため、ご自身の健康状態の把握や健康管理に活用できます。
- 健康診査など、皆様の健康保持・増進に役立つ情報をお知らせします。
- 診療日数等に間違いがないか確認しましょう。

お問い合わせ先  
北海道後期高齢者医療広域連合  
〒060-0062  
札幌市中央区南2条西14丁目国保会館6階  
電話 011-290-5601

古平町役場 民生課 健康保険係  
電話 0135-42-2181

## 国や道などからのお知らせ

### 海上保安大学校・海上保安学校学生募集

海上保安庁では、平成30年4月期採用の学生を募集します。

○待遇 学校は、入学金、授業料が一切不要で、学生は入学と同時に国家公務員としての身分を与えられ、給与やボーナスが支給されます。

#### ○受験資格

・海上保安大学校 平成29年4月1日で高等学校又は中等教育学校を卒業した日の翌月から起算して2年を経過していない者。平成30年3月までに高等学校又は中等教育学校を卒業する見込みの者等。

・海上保安学校 平成29年4月1日で高等学校又は中等教育学校を卒業した日の翌日から起算して5年を経過していない者。平成30年3月までに高等学校又は中等教育学校を卒業する見込みの者等。

#### ○試験日程

・海上保安大学校  
 申込用紙等配布開始日 6月14日(水)  
 受付期間 (インターネットの場合)  
 8月24日(木)～9月4日(月)

(郵送・持参の場合)  
 8月24日(木)～8月28日(月)

1次試験  
 10月28日(土)、10月29日(日)

・海上保安学校  
 申込用紙等配布開始日 6月14日(水)  
 受付期間 (インターネットの場合)  
 7月18日(火)～7月27日(木)

(郵送・持参の場合)

7月18日(火)～7月20日(木)

1次試験

9月24日(日)

#### ○申込方法等

申込方法、試験内容等は左記のホームページをご覧ください。

海上保安庁ホームページ

http://www.kaiho.mlit.go.jp/ope/saiyou/bosyu.html

#### ◇申込・問合せ

小樽海上保安部管理課

☎0134-27-6118

### 各種自衛官等の募集

自衛官候補生・一般曹候補生(男子・女子)を募集します。細部応募資格等については左記までお問合せください。

#### ◇お問合せ先

自衛隊札幌地方協力本部小樽地域事務所  
 (小樽市稲穂2-22-4樽石ビル2F)  
 ☎0134-22-5521

### 無料法律相談のご案内

毎月第3水曜日に無料法律相談所を開設しています。金銭、不動産、家事等の法律問題を札幌弁護士会所属の弁護士が相談に応じます。お気軽にご利用ください。

○日時 7月19日(水)午後1時～

○場所 余市町中央公民館2F

相談時間は1人30分まで、事前予約が必要です。

#### ◇お問合せ先

役場 民生課 福祉係

☎42-2181

### 漁港内の遊泳禁止について

平成29年4月1日から、漁業者と遊泳者とのトラブル防止のため、条例により、道内の全漁港(分区、分港を含む)の指定区域で、遊泳や潜水、入水し釣りをすることが禁止になりました。

違反をすると、5万円以下の罰金に処されることがあります。また、漁港内での遊泳は事故を招く恐れのある危険な行為です。絶対にやめましょう。

### 全国一斉「子ども人権110番」強化週間のお知らせ

平成29年6月26日(月)から同年7月2日(日)までは、全国一斉「子ども人権110番」強化週間です。いじめ、虐待、インターネットを悪用したプライバシー侵害など、子どもの人権に関する悩みことや心配ごとについて、法務局職員や人権擁護委員が電話相談時間を延長して対応し、解決に導きます。

相談は無料で、秘密は厳守されます。お気軽にご相談ください。

#### 専用相談電話

0120-0007-110

#### ◆相談時間は次のとおりです。

6月26日(月)～30日(金)

午前8時30分～午後7時

7月1日(土)・2日(日)

午前10時～午後5時

## 7月の休日当番病院

### 《医科》

◇7月2日(日)

勤医協余市診療所

(☎22-2861)

◇7月9日(日)

中島内科

(☎22-3866)

◇7月16日(日)

田中内科医院

(☎23-6881)

◇7月17日(月)

佐野内科クリニック

(☎22-6125)

◇7月23日(日)

小嶋内科

(☎22-2245)

◇7月30日(日)

林病院

(☎22-5188)

※当番医の診療時間は9時～17時までです。

※夜間については余市協会病院で急患に限り診療しております。

診療時間 午後6時～

翌日午前7時

診療科目 内科、小児科、外科、

整形外科

# 優勝をめざし稽古の日々

## 剣道少年団



6月8日 練習後の関係者らの集合写真

剣道少年団が、毎週火曜日と木曜日に、B&G海洋センターで練習を行っています。  
現在、5歳から小学校6年生までの10人が、9月頃に行われるB&G主催の大会出場に向けて基本打ち（面、小手、胴打ち）などの稽古に取り組ん

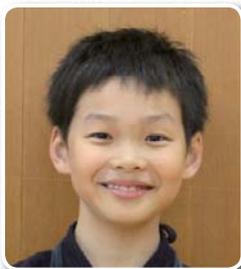
でいます。どの団員もものすごい迫力があり、竹刀の音と大きなかけ声は海洋センター中に響いています。  
5月14日には、余市町の総合体育館で行われた第57回竹鶴杯剣道大会の団体戦と個人戦に出場し、個人戦では白岩拓く

ん（3年生）が見事に1回戦を突破しました。  
団員の6年生、白岩莉久くんは「練習は厳しいものだけど、大会での優勝に向けて、みんなで一生涯懸命練習を頑張りたいです」と話してくれました。

## 団員紹介



しらいわ たく  
白岩 拓  
(3年)



たかし ゆう  
田岸 由羽  
(3年)



わたなべ りょうすけ  
渡邊 凌祐  
(4年)



わたり ゆういち  
亘 裕一  
(6年)



しらいわ りく  
白岩 莉久  
(6年)



ほり さらん  
堀 紗蘭  
(5才)



ひらお みゆ  
平尾 美結  
(6才)



ほり あおい  
堀 葵生  
(1年)



ひらお あゆむ  
平尾 歩睦  
(3年)



ほり かなと  
堀 奏音  
(3年)

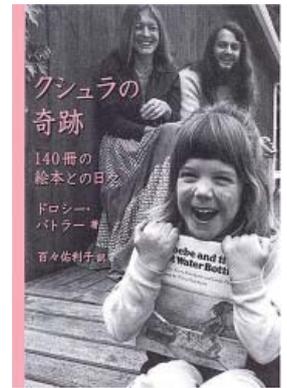


# 本の海よい 絵本の読み聞かせの効果 ～『クシュラの奇跡』よい～



みなさんにとって、絵本の読み聞かせは身近なものでしょうか。学校や図書館で読み聞かせがあったり、ご家庭でも経験がある方も多いと思います。その絵本の読み聞かせですが、はたしてどのような効果を持っているのでしょうか。

絵本の読み聞かせの効果を感じさせる本当にあつたお話があります。『クシュラの奇跡』140冊の絵本との日々』として出版もされている、重度の障がいを抱えた女の子のお話です。クシュラは、生まれた時から、複数の障がいがあり、昼も夜もほとんど眠れない状態でした。その長い時間に、両親が絵本の読み聞かせを始めたのがきっかけで、クシュラは、三歳になったころには健常児をしのぐ言語能力の発達をみせたそうです。絵本が家の外に広がる世界と繋



がる手段になり、言語分野や喜怒哀楽の感情を育てたのです。このお話から、両親が根気強く続けた絵本の読み聞かせの効果がわかると思いますが、ぜひ、小さいころからの読み聞かせをおすすめします。

また最近では、家読（うちどく）という言葉も広がってきています。家読とは、家庭での読書を通して、家族のコミュニケーションを図ろうという取り組みです。1日10分からでも読書の時間をつくり、ご家族で本に親しんでみてはいかがでしょうか。

## 文化会館図書室

★開室日時 月～金曜日

(祝・祭日を除く)

午前10時～午後5時

司書：水曜日午前

木曜日午後

金曜日午後

★貸出冊数 1人5冊まで

★貸出期間 2週間

◇お問合せ先

町教育委員会 ☎42-2590

## いきいき・ほのぼの文芸

### 古平町岬短歌会

励ましの笑顔ひろげて桜花咲く厳しき冬をこえし強さよ	泉 清三
ゴウゴウと雨を誘って走る風ものともせずほの煙のアスバラ	金子 寿子
温き日差しありがたみ来し菩提寺に春の彼岸の経を唱へる	坂本 信子
風はや、冷たく想ふも五月晴を嬉しみ友と髪切りに行く	鈴木 時子
久々に姪子運転ドライブは何年振りか美国海岸	田中 香苗
春彼岸ボカボカ陽気の本堂に御先祖様の灯火ゆるる	寺田 カツ子
サフランやまた福寿草美しく鮮やかな色しばし行む	小山内 いお子

### 古平俳句会

卯波立つ海原遙か船の航く	笹舟に想ひをのせる風五月
卯波立つ海を眼下にの岬道	着こなしの素敵なひとの衣替
渡辺 嘉之	仲谷 比呂子
海風も日毎おだやか夏霞	
夕焼の色をまとひし谷若葉	高橋 重子
白牡丹潮の香に覚め風に覚め	
来し客に牡丹談義の夕べかな	室谷 弘子



# こども国際交流体験旅行



柔軟な感性を持つ小学生に、多様な文化と触れる機会を提供するために、6月3日、古平国際交流協会（浅野恵子会長）が「こども国際交流体験旅行」を実施しました。

同旅行は今年で3回目の開催です。参加した小学4～6年生22人は、大勢の留学生が学ぶ北海道大学大学祭で各国の展示物やパフォーマンスを見学したり、外国の料理を味わったりして、外国の文化や風土などの生の声を聞くことができました。

旅行後、こども達は「外国のことをもっと知りたい」「外国の人ともっと話してお友達になりたい」と笑顔で話していました。

## ふるびら 元気っ子

町内に住む満1歳になる子どもを紹介します。  
今月号は6月に誕生日を迎えた子どもです。



**伊藤 翔琉 ちゃん**  
 かける  
 6月6日生  
 保護者 博貴 さん  
 (清住) 知花 さん  
 (知花さんより)  
 明るく優しい子に育ってほしい

### 町の人口と世帯数

	前月比
人口 3,155人	(-9)
男 1,493人	(-5)
女 1,662人	(-4)
世帯数 1,776世帯	(-3)
外国人 37人	(-4)
男 2人	(0)
女 35人	(-4)

(平成29年5月末日現在住民基本台帳人口)

### ご冥福をお祈りいたします

氏名	年齢	死去月日	町内
竹本 榮子 さん	76歳	5・12	入船町
本間 六郎 さん	88歳	5・16	清住
五十嵐 ミツエ さん	89歳	5・16	浜三
山内 けい さん	93歳	5・17	丸山町
田中 ナミ さん	85歳	5・19	浜一
白岩 勇次 さん	86歳	5・21	新地町

### おたんじょうおめでとう

氏名	生年月日	保護者	町内
相内 あいり ちゃん	5・13	秀海 さん	入船町
茂野 まつた ちゃん	5・31	貴仁 さん	浜五

金額	氏名	住所
3,000円	竹本 敬治	(入船町)
1,000円	五十嵐 秀子	(旭町)
1,000円	多奈賀 佐登志	(新潟県)
1,000円	白岩 悟	(千歳市)

ご寄付いただき誠にありがとうございました(敬称略)